

# 第3回文京区アカデミー推進協議会分科会(文化芸術分野) 議事要旨

日 時	平成27年7月8日(水) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター3階大ホール会議室2
委 員	会 長 水越 伸 (東京大学教授) 委 員 高澤 芳郎 (シエナ・ウインド・オーケストラ 事務局長) 委 員 牧野 恒良 (公益社団法人宝生会 事務局長) 委 員 上田 武司 (文京区商店街連合会 副会長) 委 員 天野 亨 (文京区心身障害者福祉団体連合会 理事) 委 員 三浦 徹 (中学校PTA連合会 理事) 委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア 講座企画委員会 委員長) 委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長) 委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長)
欠 席	委 員 鈴木 秀昭 (東京商工会議所文京支部 事務局長) 委 員 春田 孝二郎 (文京区高齢者クラブ連合会 副会長) 委 員 平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長)
事務局	山崎 克己(アカデミー推進部アカデミー推進課長) 矢部 裕二(アカデミー推進部アカデミー推進課文化事業係長) 川口 明代(アカデミー推進部アカデミー推進課文化資源担当室長) 支援事業者 株式会社創建 大谷、氏原
資 料	「次第」及び「第3回分科会の進め方について」 文化芸術分野における課題 施策体系(案)

## 議 事

### 1. 開 会

### 2. 議題

#### (1) 前回までの分科会の振り返り・課題のまとめ

事務局より、「文化芸術分野における課題」について説明を行った。

水越会長 課題のまとめにある7項目は同じレベルになっているか。

天野委員 鑑賞と活動をつなげていくという課題を前回出していたが、それが入っていない。音楽会に行くための勉強とか、学んでからコンサートに行くことで、鑑賞の質が高まるということがあると思う。

水越会長 鑑賞と創作をつなげることは大切であるが、ここでは別になっている。項目をまとめていく上ではこうなってしまうのかもしれない。最終的に計画は冊子になるが、途中で考えたこと、プロセスが、どこかに入っていた方がよいと思う。ワークショップ形式で議論した模造紙の写真を載せるということなどが考

- えられる。
- 柳澤委員 課題が7つになっているが、大きくは3つになるのではないか。1、2、3は、一つにまとまると思う。4から6も1つにまとまる。あとは文京区らしいということになるが、この3つにまとめるということではどうか。
- 水越会長 この課題は7つというのも、とりあえずまとめたものにすぎないが、これを参考にしながら体系を考えていくことにはなると思う。
- 塩見委員 国際交流と重なるが、外国人に対して発信するという視点も必要ではないか。東洋大学の留学生と話をしたところ、根津神社と旧安田邸については、日本人より関心を持っているようだった。文京区民だけでなく、もっと広く考える必要があるのではないか。
- 水越会長 他の分科会ではどのような意見が出ていたかということも気にする必要があるかもしれない。また、「現行計画における目標ごとの課題認識」のところは、どのような視点の言葉か。
- 事務局 前回、目標を設定するために、その前に整理した課題であった。
- 水越会長 いずれにせよ、ワークショップでは、話を広げて意見を出してもらったので、この7つの課題で抜けがないかチェックしておく必要はありそうに思う。

## (2) 新しい体系(案)について

事務局より、「施策体系(案)」について説明を行った。

- 水越会長 計画の内容は、分科会で話し合ったことを生かして作っていくが、アンケートや、国、都の方向性も含めて考える必要もある。前回の計画では、文化芸術分野は大きく3項目であった。今回も3項目ではあるが、なぜ、どのように変わったかを示せるようにしておく必要がある。いろいろなことを考えて、項目は細かくすればよいかというと、そうでもない。人間が、全体をイメージできるのは5つぐらいまでであり、3つぐらいにしておくことでよいかとは思っている。また、施策の表現としては、同じことは同じ言葉にしておく必要があり、同じようなことを異なった表現にしないよう気をつける必要がある。この施策体系の下の事業は、どのようにして決めていくのか。
- 事務局 現在、区が行っている事業を、まずはあてはめる。その上で、うすい所などについてアイデアを出してもらって加えることになると思う。
- 水越会長 第1回、第2回の分科会でたくさんアイデアが出ていたので、それを入れておいてもらってもよいのではないかと考えている。
- 事務局 既存事業とは同じレベルの内容にならないのではないかと考えている。
- 水越会長 それはそうかもしれない。既存のものだけで網羅される必要はない。ワークショップでは具体的な事業案も出ていたので、それを具体化する必要がある。ここからは、方向性だけでは議論はできないだろう。
- 上田委員 次回には、行政が現行の事業をこれにぶらさげるので、足りないところを考えていくことになるのか。
- 水越会長 そのような認識でよいと思う。施策体系の案をみると、「1 だれもが文化芸術に親しむ環境づくり」は、「親しむことができる」か「親しめる」とした方がよ

い。また、「(1)気軽に観賞できる機会と場所の充実」、「(3)だれもが観賞・参加しやすい仕組みづくり」とあるが、「気軽に」と「だれもが」は似たようでも別の意味である。

上田委員 「だれもが観賞・参加しやすい仕組みづくり」は、いろいろなところで行っているので、かなり対応できているように思う。

水越会長 2の「(1)参加・創造・成果披露の機会と場所の提供・充実」の成果披露という表現は、あまり使わないと思うが、発表ではどうか。

事務局 その表現は、現行計画で使っているものである。

事務局 観賞という言葉が少し引っかかっている。文化芸術には音楽以外にも様々な分野があるが、観賞という言葉ですべてにあてはまると考えてよいか。

牧野委員 観賞でよいのではないか。

水越会長 いずれにせよ、言葉は丁寧に選んで使いたい。

上田委員 1の「(1)気軽に観賞できる機会と場所の充実」と「(3)だれもが観賞・参加しやすい仕組みづくり」は、どちらも環境づくりとすれば、同じような内容にまとまるのではないか。

三浦委員 1を観賞、2を創造活動という枠組みにしてはどうか。その場合、体験については、観賞と創造活動のどちらに含まれるのか。

水越会長 「3 地域の文化を守り未来に伝える仕組みづくり」は、「地域の文化を守り、未来に伝える仕組みづくり」とした方がよい。

牧野委員 体験するによって、観賞の質が高まるということがある。そういった視点を取り入れたい。

水越会長 1と2を分けた上で、関連することを示すことはできるか。

牧野委員 参加しているのを観ることを楽しむ人もいる。

高澤委員 観賞の方に体験を入れるのがよいと思う。

牧野委員 体験付きの観賞というのは面白く、効果がある。

事務局 今日示した案では、1は観賞より広い概念を含んだものになっている。

事務局 観賞と創造の間に体験や参加がある。

高澤委員 観賞と創造をつなぐためには、1と2を合わせてはどうか。

三浦委員 観賞、創造の前に、関心を持つような、もう一つ段階がある。地域の文化に関するものは、別の枠でよいと思う。

柳澤委員 地域の文化に関わるものは、どこでも競争のようになってきている。

水越会長 1は「だれでも気軽に」として、2を観賞と創造を合わせて一つにして、3は地域の文化、ということでまとめたい。ただし、「地域の文化を守り未来に伝える仕組みづくり」は、どこでも言える表現である。もっと文京区らしい言葉を使いたい。

柳澤委員 「(4)文化芸術関連の情報収集・整理」については、情報を収集するだけでなく、発信も重要である。

水越会長 3は「東京文化ビジョン」のように特徴的な言葉にしてもよいのではないか。

高澤委員 とがった言葉を入れることは、行政としては大丈夫なのか。

水越会長 課題のまとめにある7項目は同じレベルになっているか。

事務局 東京都までのものは難しいかもしれないが、文京区の特徴を表現することは



ではないか。

事務局 「地域」という言葉は、文京区の中の一部だけを指す表現ととらえる区民もいるかもしれない。

水越会長 ある程度ぼんやりした表現の方が、開かれている感じでうまくまとまることもある。今日の分科会で整理したものを、次回の前までに確認しておきたい。他の分野の分科会はどのような話をしているか。

事務局 国際交流は、提示した体系について、それでよいということだったので、内容についての深い議論をした。

事務局 言葉で整理されていない部分を整えてお示ししたい。

水越会長 3に活用を加える、地域はどうするか考えてもらうとして、1は親しみやすい、2は観賞、創造ということは、本日合意されたということをお願いしたい。

#### 4. 閉 会

以上